

# プレスアート誌

と

# 戦後関西

の

# 広告

Unpacking Kansai Advertising Materials:

“PRES ARTO” as ad archives

2018.10.2<sup>tue</sup> – 10.13<sup>sat</sup>

大阪府立江之子島文化芸術創造センター

開館時間11:00 – 19:00

月曜休館・入場無料

同時開催

大阪府20世紀美術コレクション

# 特集 田中一光

enoco

# プレスアート誌と 戦後関西の広告

Unpacking Kansai Advertising Materials:

“PRES ARTO” as ad archives

1937(昭和12)年に京都のワキヤ書房店主、脇清吉によって創設されたプレスアート研究会は、広告印刷物やパッケージ、包装紙などの「実物」を、その批評を掲載した冊子とともに綴じ、『プレスアート』誌として頒布しました。関西発の、他に例を見ないこのユニークな広告誌は、多くの広告制作者、グラフィックデザイナーたちにとって、貴重な資料であり、次の創作の動力となる大きな刺激でした。『プレスアート』誌は、今や20世紀の関西を中心とした広告文化とグラフィックデザイン研究に欠かせない資料です。戦前発行分の調査は進み、復刻版という成果も生まれました。しかし戦後に発行されたものについては、長らく掘り起こされることなく、静かに保管庫で眠っていました。本展覧会は、近年整理を進めている大阪新美術館建設準備室所蔵の『プレスアート』誌コレクションより、1950年代から1970年代までを中心とした戦後発行分を、初めて「開梱」します。さらに、大阪府20世紀美術コレクションとサントリーポスターコレクションから選んだこの時代の多彩な広告文化を示すポスター作品を加え、未だ評価の途上にある戦後関西の広告とデザインの新たな魅力をご紹介します。



早川良雄《サンマーセール》1950年



中村真《ソボリン》1954年



永井一正《マーブル着尺》1953年

すべてサントリーポスターコレクション(大阪新美術館建設準備室寄託)

記念シンポジウム・報告会

## 関西広告を開梱する

1930年代から70年代まで関西で発行された作品付広告・宣伝批評誌『プレスアート』。戦後50年代以降に発行されたものについては、これまでほとんど研究が進んでいませんでした。大阪新美術館建設準備室所蔵資料の同誌に付録された広告現物およそ6000点をもとに、関西を中心とした日本の広告表現史をさまざまな角度から考えていきます。

日時 / 2018年10月6日(土) 13:30-17:30  
 会場 / 大阪府立江之子島文化芸術創造センター 4階・ルーム1  
 主催 / 「黎明期広告業界誌『プレスアート』」  
 広告現物全調査に基づく関西の広告史研究」報告会、  
 大阪府立江之子島文化芸術創造センター、  
 大阪新美術館建設準備室、民族芸術学会  
 参加無料 / 事前申込不要

報告者(報告順)  
 竹内幸絵(同志社大学)  
 松實輝彦(名古屋芸術大学)  
 輪島裕介(大阪大学)  
 植木啓子(大阪新美術館建設準備室)  
 熊倉一紗(京造造形芸術大学)  
 佐藤守弘(京都精華大学)

同時開催

大阪府20世紀美術コレクション

## 特集 田中一光

会場: 4階・ルーム2

戦後を代表するグラフィックデザイナー田中一光は、1950年代から60年代にかけて、大阪でその若き才能を開花させ、後に東京で活躍します。その代表的ポスター100点余りを含む大阪府20世紀美術コレクションから作品を厳選し、田中一光の独創的な世界をご紹介します。

田中一光《Nihon Buyo UCLA》1981年  
 大阪府20世紀美術コレクション  
 ©Ikko Tanaka 1981 / licensed by DNPpartcom



『プレスアート』誌というアド・アーカイブ

Unpacking Kansai Advertising Materials: “PRES ARTO” as ad archives

大阪文化芸術FES

enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]  
 〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1-34 TEL:06-6441-8050  
 E-mail: art@enokojima-art.jp  
 地下鉄 (Osaka Metro) 千日前線・中央線「阿波座駅」下車、  
 8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。

